「社会貢献の森」“万里の森づくり活動”の

成果と今後の活動について

万里の松原に親しむ会　副会長　三浦　武

１　はじめに

私たちは、庄内海岸一帯を活動エリアとして、その造成の歴史を学びながら防砂林の整備に汗を流す外、学校の環境防災教育への支援や、国・県など行政機関の事業への協力団体として活動している。

本会独自活動としては、万里の松原（南の森）を拠点に、下刈り、剪定、遊歩道の整備などをおこない、学校への環境防災教育支援としては、保育園児、小学生、中学生に対して、万里の森の自然観察やバスを使って庄内広域の防災林学習、下刈り・剪定などの野外活動など、様々な活動の支援を実施している。

また、広報活動として「会報まつぱ（年２回)」、「短信まつぱ（月１回)」の発行は自慢の活動で、「万里の森づくり活動」なども地域に発信している。

会員は現在１０４名、団体会員は１３団体で、「楽しく・生きがい・継続」を合い言葉に活動を推進している。

２　「社会貢献」“万里の森づくり活動”参加への経過および交流発表会参加の目的

（１）　震災直後の総会（４月）で「太平洋岸では、海岸防災林が大きな被害を受けた。海岸林保全活動に参加している私たちの会として何か手伝うことはないか」との会員からの提起を受け、情報を収集しながら「支援活動」に参加の方向を決めるとともに、参加のための体制づくりに努めていくことを確認した。

（２）　荒浜の現地と東松島地区の視察等の現地学習を実施し、臨時総会を開催し、「社会貢献」“万里の森づくり活動”参加を決定した。

（３）　以降、会員による植栽活動や保育活動、小学生の荒浜での環境防災教育等々の活動を実施してきた。

（４）　平成２８年３月末日の協定更新にあたり活動や成果を総括し、今後の活動に生かしていく。

３　「万里の森」の概要について

（１）　場　　所　　仙台市荒浜地区　谷地中林国有林内
（２）　協定期間　　平成２５年２月２０日～平成２８年３月３１日
（３）　植 栽 日　　平成２５年４月９～１０日
（４）　面　　積　　０．１１HA
（５）　植栽樹種　　クロマツ　５００本（１．４m×１．４m間隔）
　　オオヤマザクラ　１０本（境界木）

４　「万里の森づくり活動」の目標について

平成２５年１月１５日に開催した臨時総会では、予算等の外、活動の目標として、次の３点を決定した。

（１）　植栽方法は、本会がこれまでの海岸林保全活動の中で学び取得した「※庄内方式」で行う。
（２）　海岸防災林の被害状況や再生計画及び再生状況を、私たちなりにまとめ、小学児童への環境防災教育の支援に活用していくとともに、地域に発信していく。
（３）　会員の参加意識の持続に努めるとともに、「楽しく・生きがい・継続」を実践していく。

「※庄内方式」：苗木は２５ｃｍ程度、植穴にわら１把と丸山３号８個を入れる
　　必要によって衝立
　　（なお、小学生の下刈り作業を想定し、切損防止のため細い添え木を施した）

５　活動の成果について

（１）　庄内方式による植栽

現地の盛り土が締め固まっていることと、土質が均一でないことから、多少の不安を持ったが、深く、廣く耕運することで対応した。

その結果、現時点で１００％活着。生育状況は若干のバラツキはあるが、標準木が７５ｃｍで、生育期間としては健全な生育と判断できる。

なお、１本あたりの資材費は２３０円（苗木７０円、添竹３０円、衝立１００円、わら外３０円）で安価にできた。

（２）　小学児童への環境防災教育について

①　「万里の森づくり活動」と海岸防災林の被害状況や再生計画および再生状況を教材として、庄内海岸林での現地学習やその事前学習に活用できた。

②　その結果、酒田市立泉小学校６学年の修学旅行が、通常１泊２日のところ、１日延長され、”社会奉仕活動”として、私たちと一緒に衝立作業などの保育活動を実施することができた。

この活動では、「万里の森づくり活動」の資金のために児童たちが行ったカンパ活動で得た５４，０００円が、荒浜現地で私たちに寄贈された。

さらに、万里の森での社会奉仕活動のために修学旅行の日程を延長したことに賛同してくれた６年生の保護者会も運動会会場でカンパ活動をしてくれるなど、「万里の森づくり活動」が子ども達を通して親にも理解されていることが実感された。

また、酒田市立松陵小学校６学年の修学旅行では、コースに「万里の森」での学習が盛り込まれ、海岸林での環境防災教育と関連づけた学習となった。

両校とも、これらの学習が、感想文や校内発表会などで取り上げられ、関心をもってきていることが実感された。

（３）　地域への発信について

①　発信の方法として、マスコミの協力と会報の配布・回覧を中心としてきたが、「万里の森」の植栽の前後に多くの取材があり、海岸防災林の被害状況と「万里の森づくり活動」が大きく報道された。

「会報まつぱ」は年２回の発行を、「万里の森づくり活動」を中心に編集し、地域自治会の協力を得て、４０００戸に回覧し、発信してきた。

②　植栽活動後、多くの団体から講師の派遣や報告会への参加要請もあり、ここでも多くの参加者に活動などを発信することができた。

さらに、酒田市自治会連合会の「自治会長研修会」が植栽現地で実施された。

③　地域への発信に係る一連の活動によって、「地震と津波」による海岸防災林の被害状況や再生の活動と、日本海側の津波との関連などについて、一定の理解を深めることができたと考えている。

（４）活動目標の共有と持続について

①　長年にわたる活動になることから、会員が活動の目標を共有し持続できるかが、大きな課題であった。

②　そのため、荒浜現地での研修や「庄内海岸林と津波」に係る研修、さらに「万里の森」設定にあたっては、臨時総会をするなどの対応をしてきた。

また、ひとり一人の参加意識の共有のため苗木オーナー制度を決め、多くの会員などから参加の応募（２９５口　一人平均２．４口）があり、活動目標の共有と活動資金確保（２９５，０００円）ができ、「楽しく・生きがい・継続」の実践を可能にしている。

（５）　林野庁長官賞外の受賞について

平成２６～２７年に次の受賞があったが、この賞は、「万里の森づくり活動」を含む一連の活動の評価と今後の活動に期待をこめられていると受け止めている。

２６年　５月１０日　林野庁長官賞
　　１０月１２日　山形県緑化等功労者感謝状
　　１１月　５日　ソロプチミスト日本財団社会ボランテア賞
　　１１月　５日　酒田市民賞
２７年　６月　４日　荘内銀行「ふるさと創生基金」地域貢献大賞

６　課題の克服と今後の活動について

（１）　会員の高齢化、財政問題などの課題はあるが、これまでの活動実績から克服できると確信している

（２）　今後とも小学児童への環境防災教育と地域への発信は継続していく。

（３）　さらに、「万里の森づくり活動」では、会員以外一般市民の参加を募り、「万里の森」と周辺被害地域の視察研修を行い、より広く発信し、日本海側の津波との関連において、一般市民の防災意識の高揚に繋げていければと考える。

（４）　そして、太平洋側で被害を受けた海岸防災林の再生の経過を見まもり、完成した防災林を見届けたい。